

仁科記念室と仁科先生に関する資料



小林 誠

Kobayashi Makoto

(公益財団法人仁科記念財団 理事長)

本年4月に、山崎敏光 前理事長より仁科記念財団の理事長を引き継ぎました。同時に、財団は新しい法人制度の下での認定を受けた公益財団法人として新たな一步を踏み出しました。財団のオフィスは日本アイソトープ協会の本部の一角をお借りしておりますので、理事長就任以来、協会本部の歴史的な建物や落ち着いた佇まいを楽しむ機会が格段に増えました。

財団のオフィスに隣接して仁科芳雄先生の研究室が仁科記念室として残されており、そこには先生の使っておられたデスク等の調度や膨大な書類が保存されております。周知のように、仁科先生は量子力学成立前後の時期を、その中心地であるコペンハーゲン^{かいく}のニールス・ボーアの下で研究されました。クライン・仁科の公式をはじめ、赫々たる成果を挙げて帰国されると、理化学研究所に仁科研究室を開かれ、我が国の原子物理学研究の基礎を築かれました。仁科研究室には、朝永振一郎先生をはじめとする気鋭の研究者が集い、理論・実験の両面にわたり世界的水準の研究が行われました。当時の理化学研究所は、現在の協会本部から高層ビルが林立する文京グリーンコートにわたる一帯に多くの建物を有していましたが、現存するのは協会本部の入っている旧23号館と財団オフィスや仁科記念室がある旧37号館のみということであります。また、仁科先生のお弟子さんたちの手で再建された仁科小サイクロトロン^{かく}の電磁石部分が、協会の敷地内に記念碑として残されています。

さて、仁科記念室に残されている貴重な資料を整理・保存・公開することが財団の重要な責務であると考えております。幸い、故 中根良平先生らのご尽力により、その一部が「仁科芳雄往復書簡集—現代物理学の開拓」(全3巻、みすず書房)として出版され、更に書簡集の「補巻」が近く上梓される予定であります。なお膨大な資料が残されております。これらの資料の整理を進め、適切な方法で保存・公開して参りたいと考えております。

ところで、数年前に日本アイソトープ協会・理化学研究所主催、仁科記念財団後援で仁科記念シンポジウム「アイソトープ科学の最前線—核物理から核医学まで—」が開催され、好評を得ましたので、こうした催しをシリーズ化しようという計画が進められており、近く第2回のシンポジウムを開催する予定であります。仁科記念財団では、様々な機会を通じて日本アイソトープ協会との協力関係を深めて参りたいと考えております。